

70. <人類は地球の間借り人>

地球が誕生して 45 億年といわれていますがこれを 1 年 365 日に換算してとらえてみると、生物の誕生が 5 億 4000 万年前で 11 月 19 日頃に相当します。恐竜は 7000 万年～2 億年昔とされていますから 12 月 15 日頃から 25 日の 10 日間ほど生存したことになります。

類人猿が 2 足で歩き始めたのが 200 万年前で 12 月 31 日の午後 8 時頃、火を使うようになった旧石器時代は 12 月 31 日午後 23 時 40 分頃に相当します。中国 4000 年の歴史といいますが、人類が文明を有するようになったのは 31 日の午後 23 時 59 分 30 秒頃となります。このような地球の永い歴史からみれば、人類は地球の極一時的な間借り人に過ぎないということが理解できます。

地球は余分な資源を数億年という年月をかけて地中深くに封じ込めることで、生物が生息できる環境を作り上げてきたのです。人類は長い間地球の自然環境に自らを合わせて生存してきましたが、近年自らの快適な生活創造のみを求めて、地中深く封じ込められてきた貴重な化石資源を、あたかも人類の私物のような錯覚で掘り出し、好き勝手に消費しはじめたのです。

このような状況を「人類滅亡の危機」と称する学者も多くいますが、世界各地で頻発する異常気象はあながちそれを否定できないことを物語っています。自国の繁栄のみ考えている世界各国の指導者は早く認識を新たにし、グローバルな視野に立ってこの人類の危機を乗り切る必要があります。

地球は決して人類の私物ではなく、人類が一時的に間借りしていることを認識し、もっと地球に謙虚な生活に改めない限り早急に追い出されてしまう（人類滅亡）のは間違いないでしょう。地球にやさしい下水道を目指して、今後も下水汚泥有効利用の研究開発に取り組んで生きたいとおもう今日この頃です。

< 島田 正夫 >

※ J S 技術開発情報メール No. 77 号 (2008/4/16) に掲載